

第69回 埼玉県美術展覧会審査評

【第1部 日本画】

審査主任 内藤 五瑠
ないとう ごろう

第69回県展日本画部門の一般・会員の総出品点数は、178点で例年より若干の減少の傾向が見られました。それでも最高齢の出品者は88才、最年少の出品者は16才と、大変幅広い年代の方々の出品があり、嬉しい事です。

日本画の技法は、絵具ニカワ等、習得するのに時間がかかります。皆さん粘り強く制作を続けて出品されています。作品の傾向も幅広く意欲的なものが多いと感じました。審査員8人は何度も審査を繰り返し行い、その結果、132点の入選作品を選出しました。

止むを得ず選外になった作品の中にも、魅力のある作品があり、次回、更なる成長を期待します。何よりも描き続ける事の大切さを、私自身痛感いたしております。来年は県展70周年を迎えて、益々皆さんの作品が数多く出品される事を大いに期待致します。

・埼玉県知事賞

まちかど すいそう
「街角の水槽」

ひらの たみこ
平野 民子

町の交差点の角に設置された、大きな熱帯の海水魚の水槽を巧みに描いています。様々な魚の動きと色彩が素晴らしく、ガラス越しのスクランブル交差点の光景、吹き出す水と上部の波紋等、やわらかく表現されています。

今迄にない楽しい作品が、最高賞になりました。とても瑞々しく、魅力的な作品です。

・埼玉県議会議長賞

たいりょう まつ
「大漁を待つ」

こうの しゅういち
河野 修一

朝もや漂う港の岸に引き上げられた小舟を、端正で細やかな表現で描きあげた静かで落ち着いた作品です。淡くかすんだ冬の木立、静かな波、横木の列、無風のため垂れ下がった吹流し、何よりも後ろから捉えた漁舟の表現が心に静かに沁みるような、心地良い作品です。

落ち着いた理知的な表現を、楽しく拝見しました。

・埼玉県教育委員会教育長賞

「抱く」
いだ
山口 裕美
やまぐち ゆみ

大きな猫を抱く若い男性の作品、描写力に優れたさわやかな作品です。猫の顔に口元が隠れた青年のまなざし等、計算された構図と、白描（線描きだけ）の背景の表現も美しく、県展に多く見られる、絵具を塗り込んだ人物作品とは違った、新しい作風で好感が持てます。

今年の上位三賞は、いずれも構図表現技法の独自性がはっきりと出た、良い作品が揃ったと思います。

・埼玉県美術家協会賞

「カーニバル」
いまい みはる
今井 美晴

耳の付いたかぶりものをした若い女性が二人、引き屋台のみやげ物をのぞき込んでいます。右奥には建物にあかりが輝き、子供らしき人物がこちらに歩いて来る様が、淡いけれども適格に描かれています。

日本か外国か、どちらにしても楽しい様子がやわらかく丁寧に描き込まれていて、好感の持てる作品です。描写力が十分に生かされています。

・埼玉県美術家協会賞

「静かな刻」
しず とぎ
かわむら せつこ
河村 節子

樹々の繁る、静かな森の子徑を、じっくりと描き込んだ作品です。落ち着いた色調

と柔らかなタッチで、静けさが良く表れており、好感が持てます。

現代の日本画は、線描を越えた絵具の表現にも魅力があり、様々な個性的な表現が可能です。この作品もその魅力がよく表現されています。県展の作品でも個性的な表現の作品が多々あり、これからも楽しみです。

・ FM NACK5賞

「追想」

望月 咲貴

淡い色彩とやわらかなマチニールの中に、蝶が舞い飛ぶ姿が生き生きと描かれた、魅力のある作品で、数ある出品作の中から、報道関係賞に選ばれました。

これからも益々制作を重ねて、美しい作品を県展に出品される事を期待致します。

・ 埼玉県美術家協会会長賞

「今日の仕事」

川本 みつ子

椅子に腰かけて振り返った若い女性がシルエットに近い暗い陰影の中で生き活きと描かれています。

背景の箔の光りが一層強く人物と膝に抱いた愛犬を浮かび上がらせています。椅子にタオルが掛かり、犬のシャンプーを終えて一息といった場面でしょうか？

周りを囲む植物も、感覚的に表現されていて、素敵な作品です。

・ 高田誠記念賞

「祭り！」

中谷 小雪

懐かしい田園風景、遠くの畔道を、巨大な花笠を中心に、祭りの一行が通り抜けて行きます。

手前の木々の繁みの中には、オオムラサキ（蝶）をはじめとする昆虫の姿が楽しく描かれていて、郷愁をそそります。作者のふるさとの夏祭りでしょうか？

こだわりを感じさせない素直な視点が、楽しい作品を生み出しました。